

2年組 国語科学習指導案

日時 平成15年6月3日(火)
時間 第3限目
場所 2年組教室(1階)
児童数 名(男子 名女子 名)
授業者 松村 薫

1, 単元名 だいじなことをおとさずに, 話したりきいたりしよう

教材名 ともさんはどこかな

2, 指導の立場

(1) 単元について

本単元は, 大勢の中から迷子になった人物を探し出すというゲームの形で, 大事なことを落とさずに聞くことや順序を考えて話すことが学習できる単元である。また, 迷子アナウンスという実際の場を設定することで, 次のことが中心的な学習内容になると考えている。

- ・知らせたい事を選び, 事柄の順序を考えながら, 相手に分かるように話す。
(話すこと・聞くこと ア)
- ・大事な事を落とさないようにしながら, 興味をもって聞く。(話すこと・聞くこと イ)

(2) 児童の実態について

話すことにおいては, 尋ねられたことに対して, 簡単な一文で応えることはできるが, クイズ大会のように単語で応答し, 教師相手の一問一答形式での話し方がほとんどで, 学級全体の子を意識した話し方ができる子は少ない。また, 語彙に乏しく, 「わたしは, うれしいと思いました。」との発言を聞いても, 「同じです。」と反応し, 自分の真の思いを「同じ」の一言で片付けてしまい, 語れない子が多い。朝の会で, スピーチや言葉のたしざんゲームと題して, 一つのものでたくさんの言い表し方があるのだということを実感させたり, 「同じ」でも一字一句同じではないはずだからと話し, 「同じです。」と反応した子にも話させてみたりしながら, 語彙力が高まるよう指導してきた。

聞くことにおいては, 話している人の方を見て聞くということはだいたいできている。しかし, 形だけに留まっているのか, なんとなくしか聞き取れず, 活動に入るときに戸惑っている子が多い。自分の考えが, 発表者の考えと比べてみるとどうなのか, 明確な反応ができる子は少ない。

2年生とはいっても, 自分の考えを持ち, それが相手とみてどうなのかを言葉では表現できなくても, ハンドサインやつぶやきなどで表現しながら聞くことができるようにしたい。授業の中でその都度いい反応の姿が見られたら紹介する, 活動の指示は, 2度は言わないようにする, 朝の会のスピーチで質問コーナーを設けてみるなどの指導を行ってきたが, まだまだ聞き甘さが伺える。

(3) 指導について

まず, 聞き方のポイントがそのまま話し方のポイントとなると考え, 迷子が自分で探し出せるように, 迷子の特徴となる大事なことを落とさずに聞くことができるよう, 支援していきたい。そのためには, 状況・場面意識(遊園地で迷子になってしまった子がいる。何とか助けてあげたい。)を持続して持ち続けられるよう, また, 自分の立場がはっきり分かるように場の設定を工夫したい。次に, ゲームが成立する話し方がきちんとできるよう, 相手意識(遊園地にいる人たち全員に)と目的意識(迷子を見つけてもらうために。)を毎時間確認して持たせていきたい。そのために, 評価が, 自己・他者の両方で行われるような活動の形態の工夫を取り入れたい。

(4) 研究主題に関わって

この単元では、迷子が探し出せるように、注意深く聞く練習が、ゲームを通して自然に行われる。また、相手に分かりやすく話すための手段が学べる。自分の考えを持つためには、まず、聞くことができ、いくつかの情報を把握できる力が必要である。その基本的な聞き方の指導ができることによって、語彙力を高め、やがては、自分の言葉というものを見つけ、やがては、場や相手に応じた話し方ができる子を育成できると考えている。この単元を、これからの表現力の土台づくりの場としたい。本校の研究主題「豊かに表現できる子の育成」の表現の豊かさを培わせる第一歩を踏み出せるように、(3)で記した指導の工夫を行いながら、本時のねらいが達成できたかを見ていきたい。豊かさとは、「言葉巧みに話すではなく、たどたどしくても場や相手に応じた話し方ができること」ととらえて、研究主題の関わって、本時に願う姿は、「友達の作った迷子のアナウンスを本時の課題の観点で評価しながら聞くことができる」「自分の言葉で迷子のアナウンスを作ることや友達のアナウンスを評価できる」と設定したい。

3.単元のねらい

先生や友達のアナウンスを進んで聞き、解決のために必要なことを尋ねようとしている。

迷子の特徴を聞き落とさないように、注意して聞くことができる。(イ)

迷子が探し出せるように、迷子の特徴となる大事なことを選び、順序よく話すことができる。(ア)

迷子の特徴がよく分かるように、はっきりとした発音と丁寧な言葉遣いで話すことができる。(ア)・オ(オ)

4.単元の評価規準

ア国語への関心・意欲・態度	イ話す・聞く能力	ウ言語についての知識・理解・技能
先生や友達のアナウンスを進んで聞き、解決のために必要なことを尋ねようとしている。	人物の特徴を表す事柄に着目し順序と数を考えて話している。人物の特徴を聞き落とさないように、注意して聞くことができる。	はっきりとした発音と丁寧な言葉遣いで話そうとしている。聞きやすい声の大きさやさを考えて話している。

5 . 単元指導計画

時	ね ら い	学 習 活 動	評 価 規 準	評価方法	評価の手立て
1	迷子を見つけるための大事なことに気づくことができる。	迷子探しのやり方を知り，聞くときに大切なことは何かを考える。	迷子を見つけるための情報を自分で聞こうとしている。 (ア -) (イ -)	観察 挙手 発言 カ - ド	メモするためのカ - ドを用意して聞けたかどうか自己評価できるようにする。
2	自分が話したい迷子を一人決めアナウンスを考えることができる。	自分の決めた迷子について，アナウンスを作る。	迷子を選び，人物の特徴を表す事柄に着目し，アナウンスを作っている。	観察 原稿	カ - ドを書かせてから原稿を書かせる。
3 本時	迷子は，述べる特徴の質・量と順序で見つけられることが分かると考えながら作ったアナウンス原稿を見直すことができる。	どんなアナウンスをすれば，迷子が探し出しやすいのか考えて，作ったアナウンス原稿を見直す。	迷子を特定させるために必要な情報とその量及びその順序を考えている。 (イ -) (ウ -)	観察 ペア交 流時の 様子 挙手， 発言 原稿	教師の例題文やカ - ドに立ち戻らせる。
4	聞きやすい声量や速さを考えることができる。	友達の作った迷子のアナウンスを聞き，迷子探しをする。	聞きやすい声の大きさや速さを考えて話している。 (ウ -)	発表 観察 挙手， 発言	教師提案のアナウンスやCDに，立ち戻らせる。

6, 本時のねらい

迷子は、述べる特徴の質・量と順序で見つけられることが分かり、数や順序を考えながら、作ったアナウンス原稿をもう一度見直すことができる。

7, 本時の展開

	主な学習活動	指導上の留意点	指導・援助
つ か む / き づ / ふ か め る / ま と め る	<p>本時の活動を確認する。 今日は、いよいよ迷子探しが -ムをやるよ。</p> <p>聞く時のポイントについて確認する。 ・迷子を探す時に、どんな聞き方をしたらよかったかな。</p> <p>だいじなことにちゅういしてきく。</p> <p>迷子のアナウンスに必要なことは何かを発見する。 ・今度は、話す人になるんだけど、話す時に気をつけるといいことはないかな。</p> <p>・先生のアナウンスで、困ったことや気づいたことはありませんか。</p> <p>課題 だいじなことのかずやじゅんばんに気をつけてアナウンスを見なおそう。</p> <p>アナウンス原稿を修正する。 直したいところを直しましょう。</p> <p>アナウンスをペアで交流し、なおすとよいところがないか話し合う。 自分のアナウンスをおとなりさんに聞いてもらい、直すとよいところがあったら教えてもらいましょう。</p> <p>修正したところを発表する。 どうしてそう直したのか、お話できる人。</p>	<p>・視点を明らかにする。</p> <p>・だいじなこと 他の人と違うところ その人にしかないところ</p> <p>2つのアナウンスを提示する。 数が足りないアナウンス 順序が不適当なアナウンス</p> <p>・かず ・じゅんばん に気をつけたほうがよいということを押さえる。</p> <p>・「必要か」「適順か」という観点で机間指導を行う。</p> <p>・B規準の子を指名する。</p>	<p>・ノート、掲示物をもとに出せるようにする。</p> <p>規準</p> <p>Aアナウンスに必要なことは、質・量そして順序だと着目している。 B質・量が必要だと気づいている。 C何か必要が考えがたない。</p> <p>方法 挙手・発言 原稿への修正・発言</p> <p>・両観点で、ペアの子のアナウンスと話を聞き、原稿への修正ができています。</p> <p>正 相 手 の 修 正 す べ き 点 も、 話 し て い る。</p> <p>*規準にあった教師の声かけペア交流という活動形態</p>